

閱 覧 用

たかまつ人口ビジョン（仮称）

（素案）

平成27年9月

高松市

はじめに

わが国の総人口は、平成 20（2008）年から減少局面に転じており、減少のスピードは、今後加速度的に進むことが予想されています。また、人口の構成では、少子化が進行しながら高齢化が急激に進行する状況にあります。人口減少が進み、少子・高齢化が進行することにより、生産年齢人口が減少し、経済規模の縮小や社会保障費の増加など、様々な分野に深刻な影響を及ぼすこととなります。

このような状況の中、政府は、地方の成長力を取り戻し、人口減少を克服するため、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、平成 26（2014）年 12 月には、国と地方が総力を挙げて取り組む上での指針となる「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び長期ビジョンを実現するための今後 5 か年の、目標や施策の基本的な方向、具体的な施策を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、まち・ひと・しごとの創生に総合的に取り組む方針を示しています。

本市においても、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」の考え方と、県の「かがわ人口ビジョン」を踏まえ、本市の人口の現状を分析し、人口に関する認識を市民と共有し、目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す「たかまつ人口ビジョン」（仮称）を策定します。

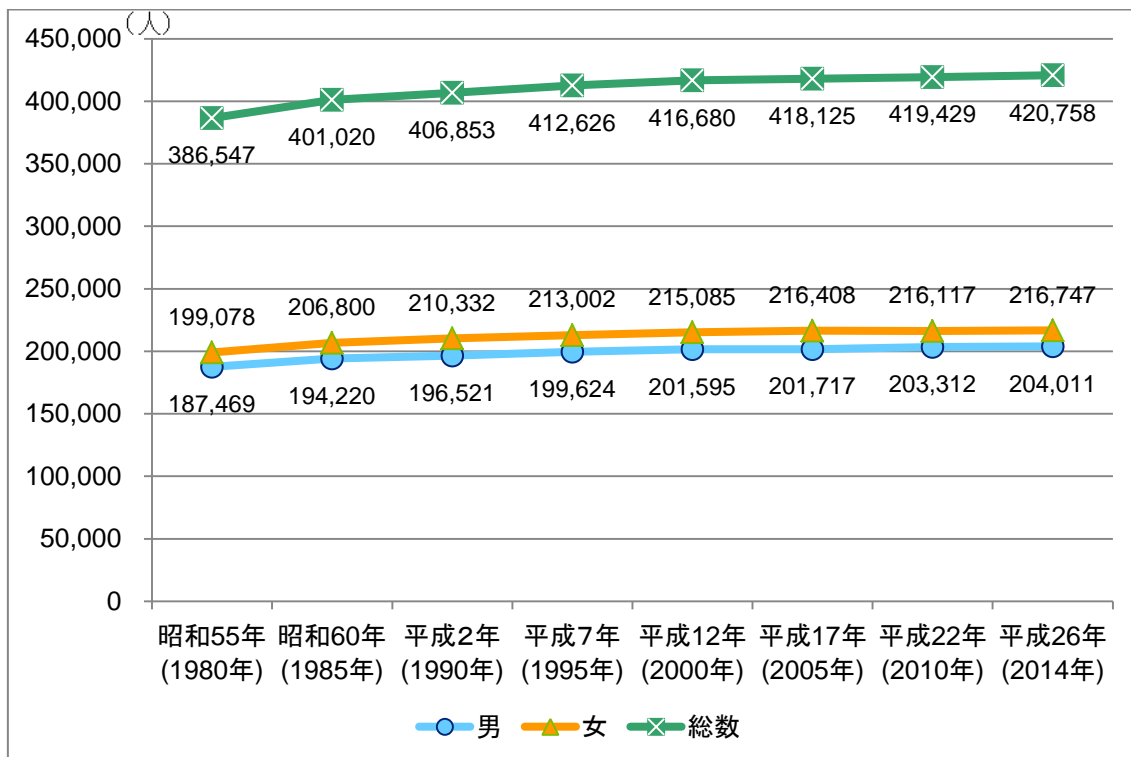
## 目次

1	高松市の人口の現状	1
(1)	人口の推移	1
(2)	人口の自然増減の推移	3
(3)	合計特殊出生率の推移	4
(4)	有配偶率の推移	5
(5)	人口の社会増減の推移	7
(6)	年齢階級別の人口移動の状況	8
(7)	年齢階級別・男女別の人口移動の状況	9
(8)	人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響	11
(9)	産業別就業者数	12
2	高松市の人口の将来推計と分析	14
(1)	人口減少段階	14
①	全国の人口減少段階	14
②	高松市の人口減少段階	15
(2)	人口推計シミュレーション	16
(3)	高齢者人口比率の長期推計	17
3	人口の変化が地域の将来に与える影響の分析	18
(1)	財政状況への影響	18
(2)	公共施設への影響	18
4	高松市の人口の将来展望	19
(1)	市民等の意識・希望	19
①	市民等アンケート	19
(2)	目指すべき将来の方向	23
①	現状と課題の整理	23
②	本市の人口減少対策	24
(3)	本市人口の将来展望	25

# 1 高松市の人口の現状

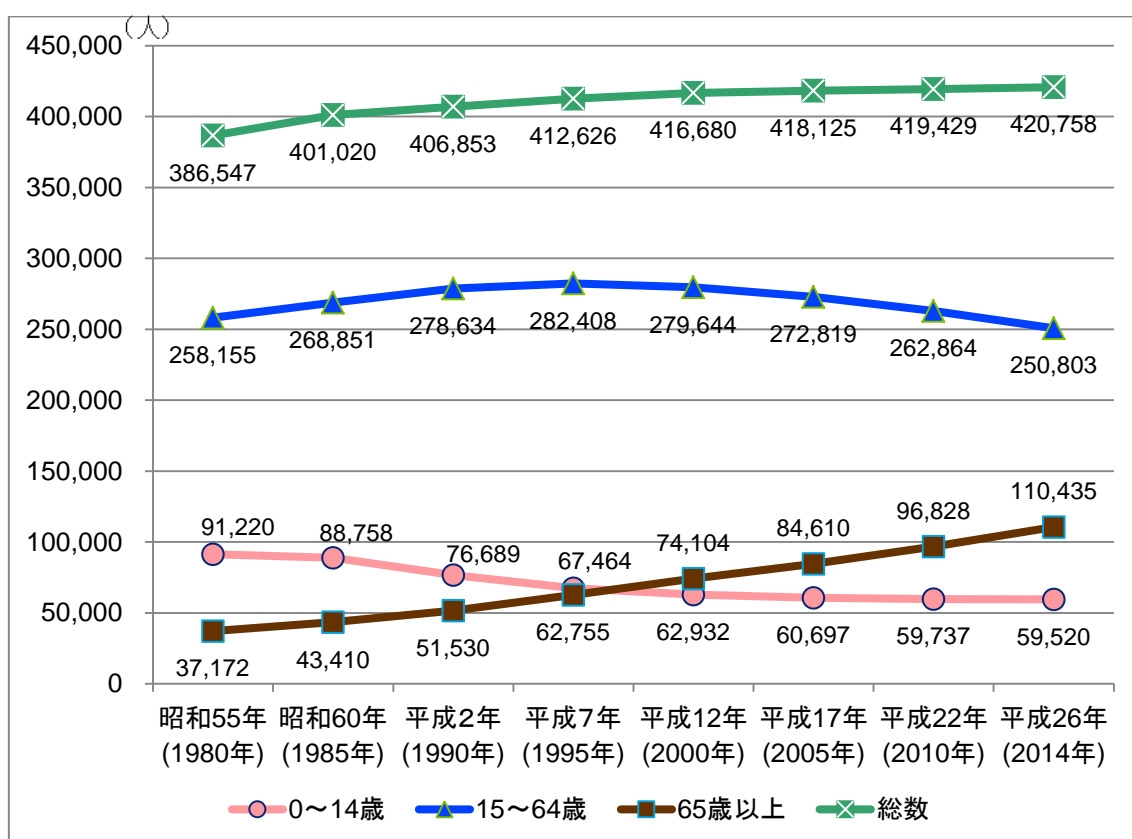
## (1) 人口の推移

本市の人口は、平成 26 年現在では、増加傾向にあります。



なお、年齢区別の人口で見ると、生産年齢人口（15歳～64歳）は、平成7年をピークに減少に転じています。

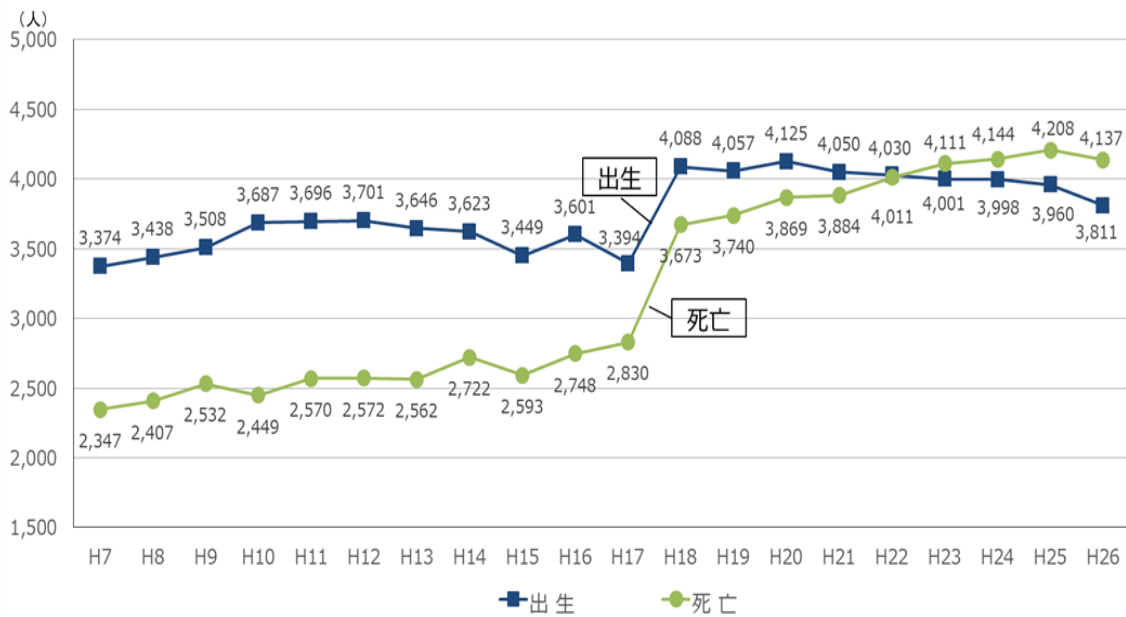
また、年少人口（0歳～14歳）は、昭和55年以降、減少傾向にあります。一方で、高齢者人口（65歳以上）は増加傾向にあり、平成12年以降は、高齢者人口が年少人口を上回る状況になっています。



## (2) 人口の自然増減の推移

本市の人口の自然増減は、平成 18 年の合併後、出生数は減少傾向にあります。一方、死亡数は増加傾向にあり、平成 23 年以降は、死亡数が出生数を上回っています。

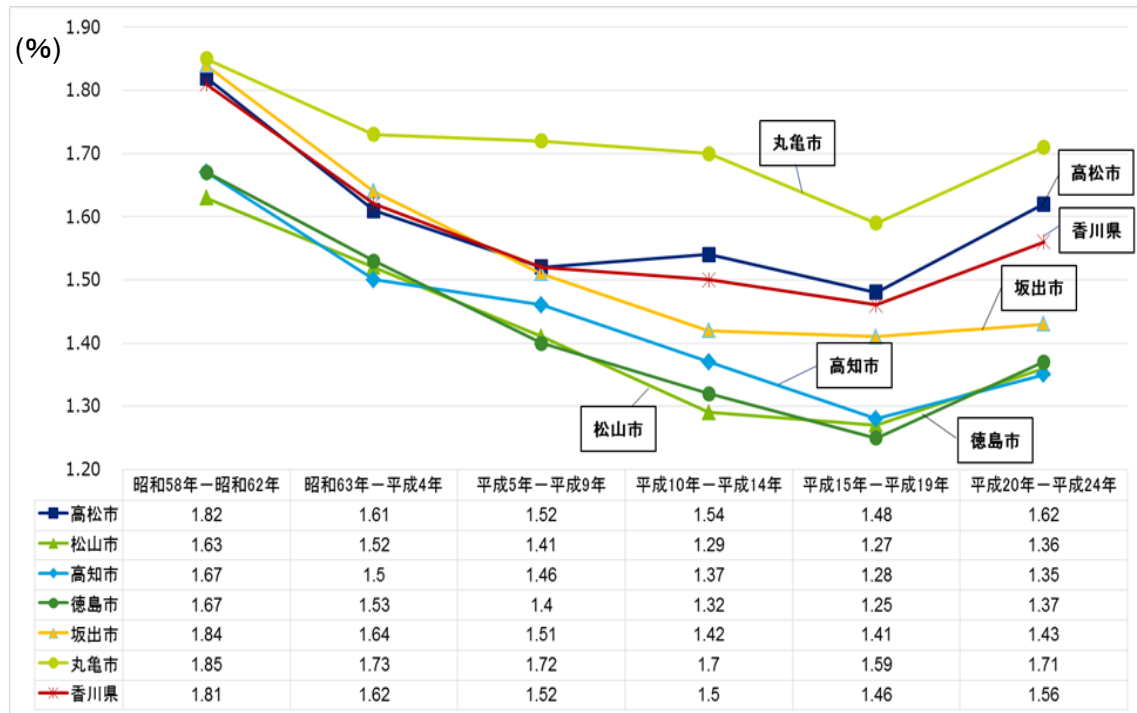
また、死亡数が増加傾向、出生数が減少傾向にあることから、「自然減」が拡大しています。



※平成 17 年以前の自然増減は、合併町を含まない、旧高松市のみの人数です。

### (3) 合計特殊出生率の推移

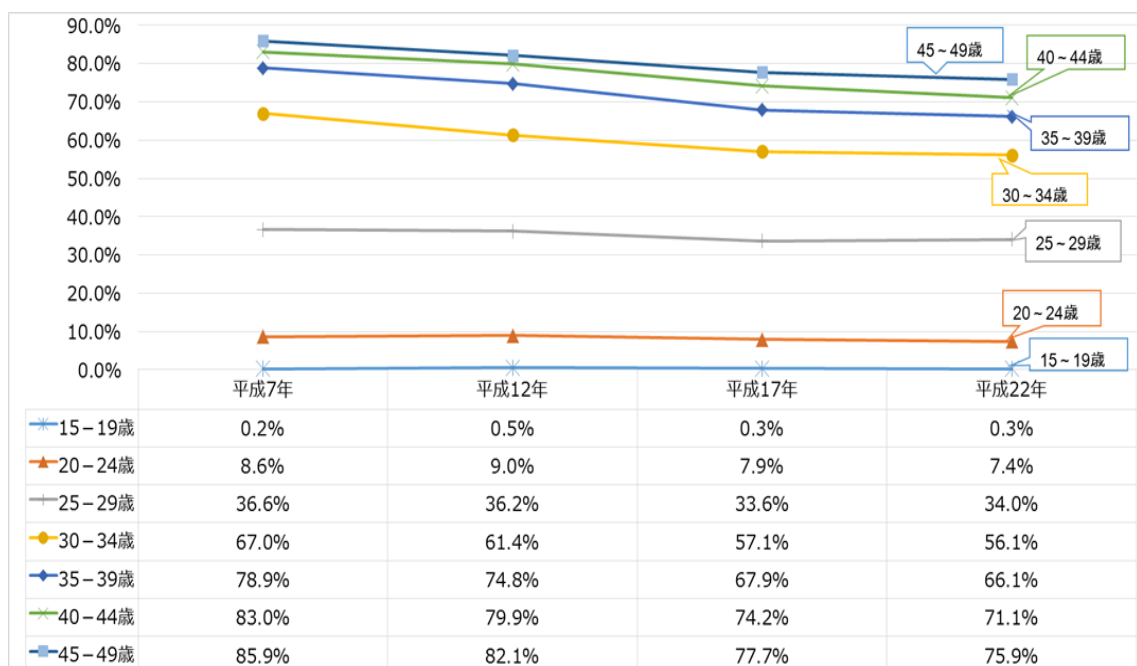
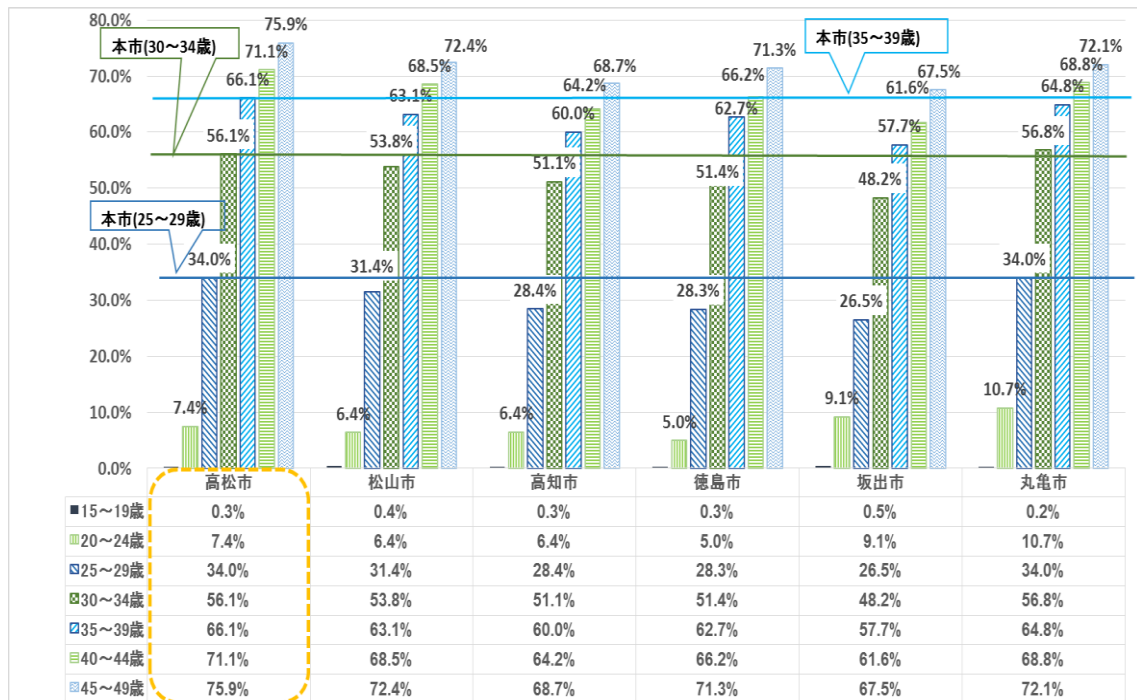
本市の合計特殊出生率は、平成15年～平成19年まで減少傾向にありましたが、その後、回復に転じ、平成20年～平成24年には1.62となっています。



#### (4) 有配偶率の推移

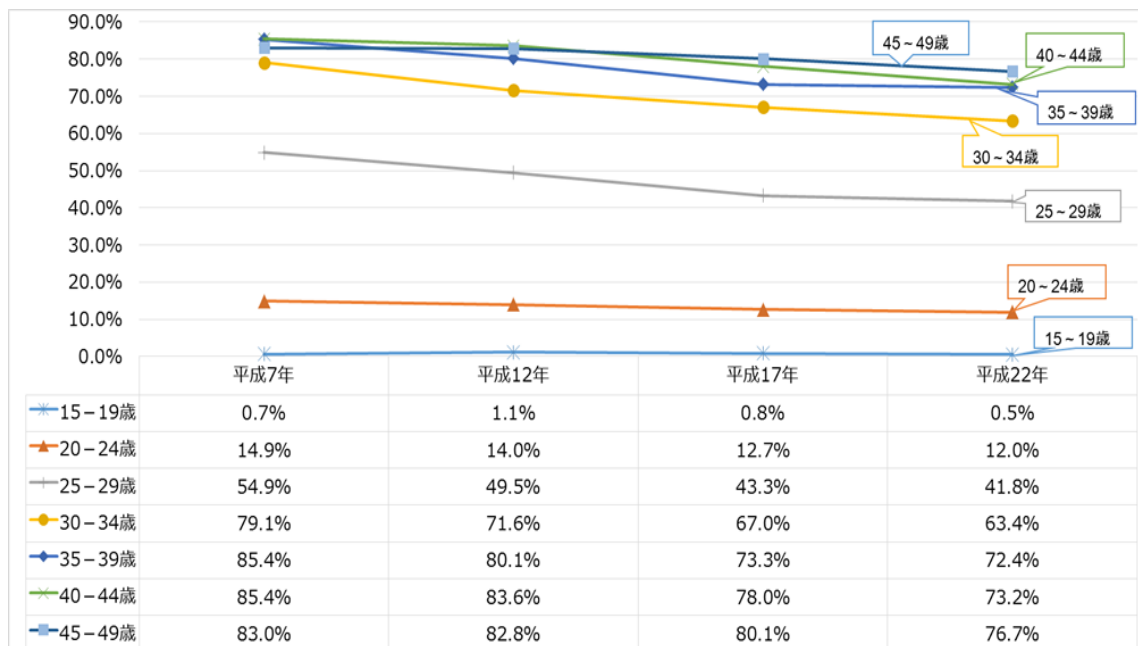
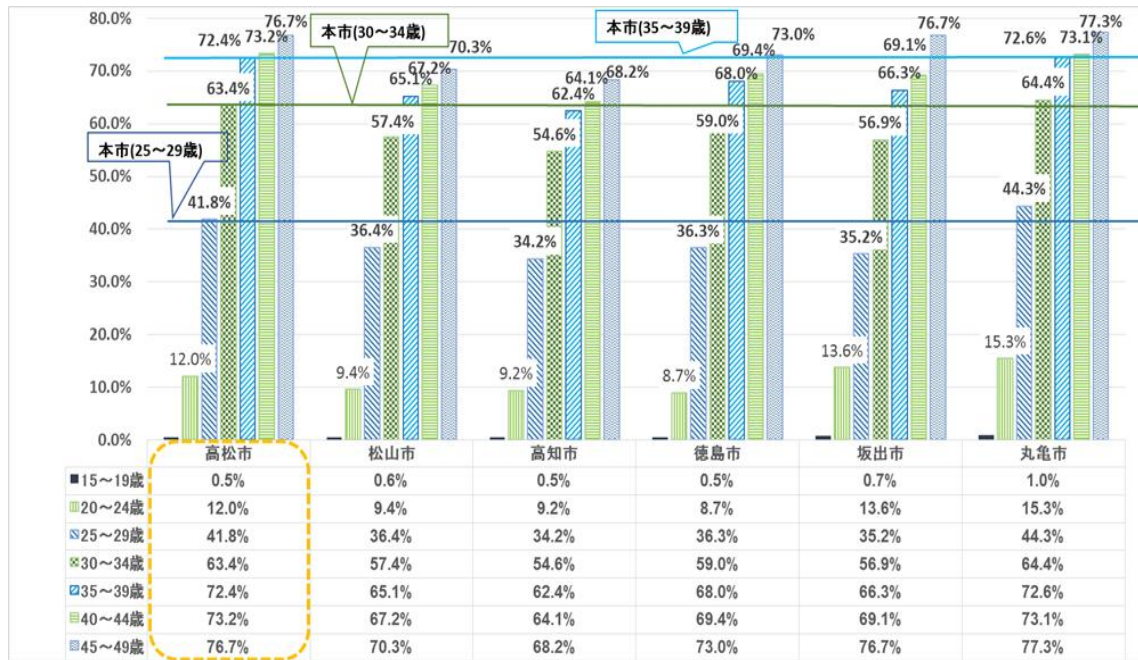
本市の男女の配偶者の状況は、男性の有配偶率が全体的に低くなっています。また、男女とも、他都市と比較すると、高い水準になっているものの、低下傾向にあります。

#### 男性の有配偶率



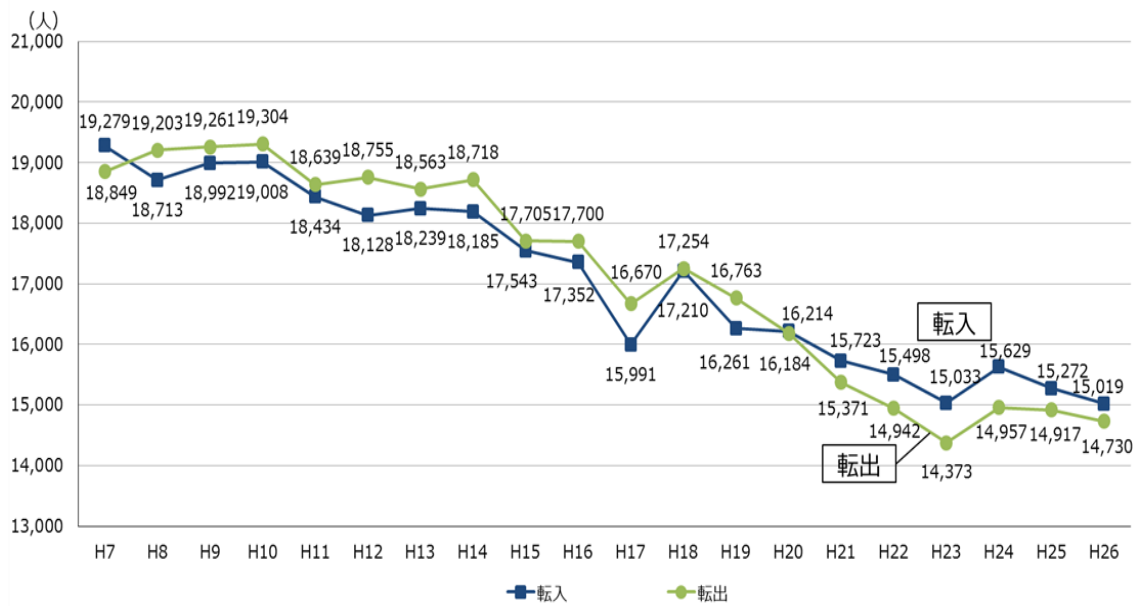


## 女性の有配偶率



(5) 人口の社会増減の推移

本市の人口の社会増減は、転入者数、転出者数とも減少傾向にあります。平成 8 年以降、転出超過が続いていましたが、平成 20 年以降は転入超過に転じています。

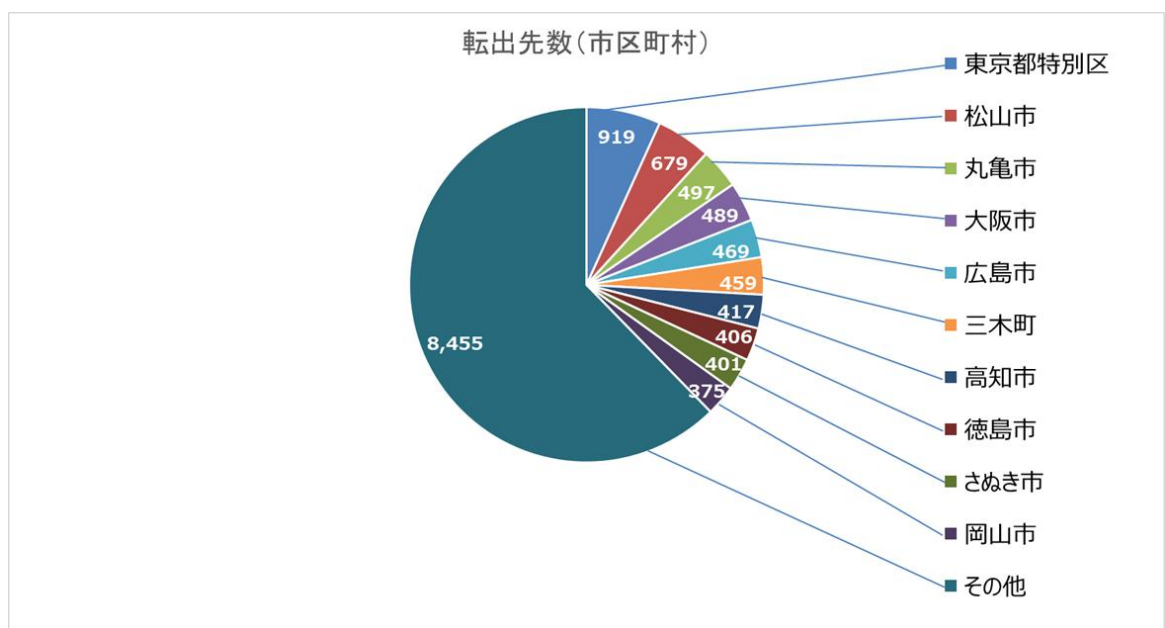
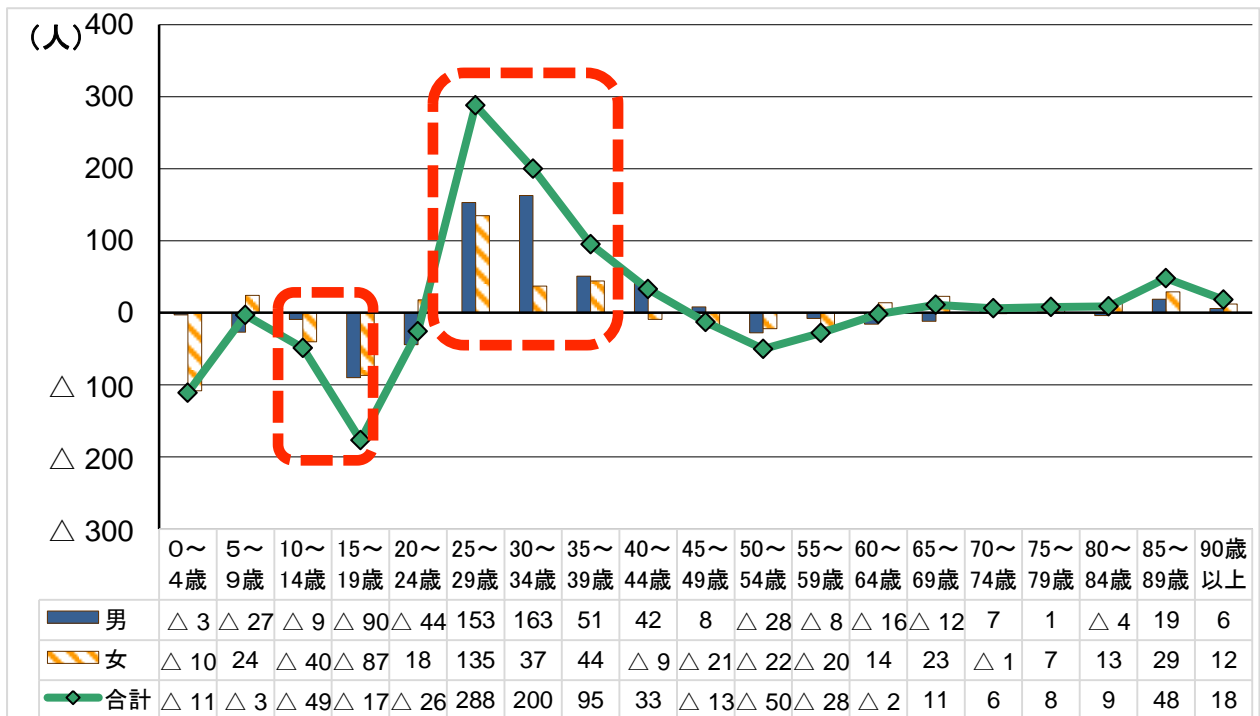


※平成 17 年以前の社会増減は、合併町を含まない、旧高松市のみの人数です。

(6) 年齢階級別の人口移動の状況

平成 25 年中の住民移動の状況を見ると、男女とも 25 歳～39 歳の層で転入超過、0 歳～4 歳、15 歳～19 歳の層で転出超過になっています。

転出先では、東京都特別区が最も多く、次いで松山市、丸亀市となっています。

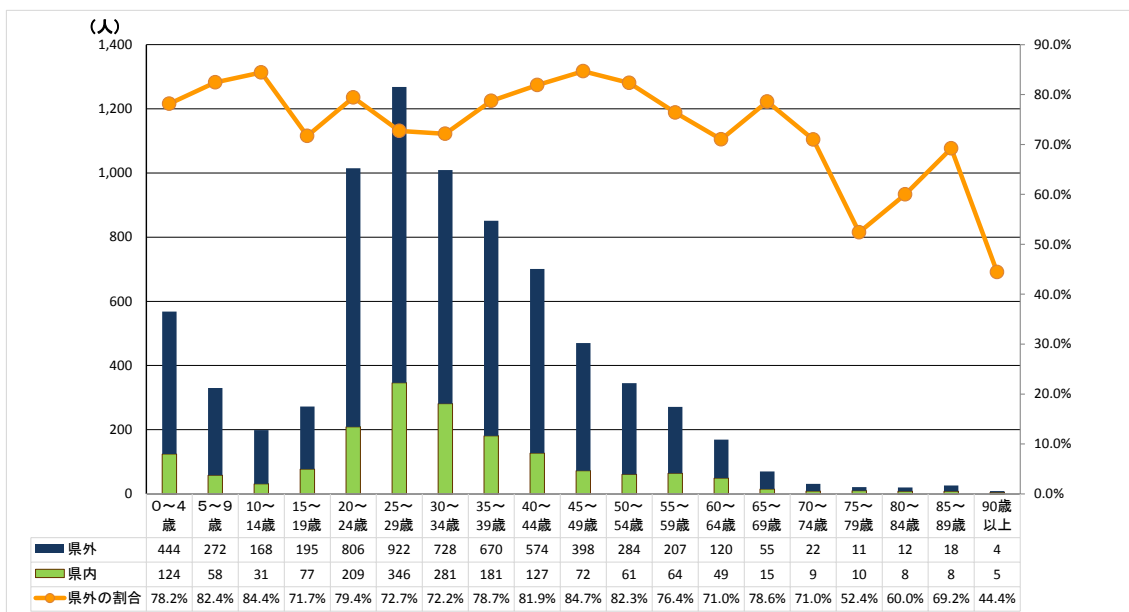


## (7) 年齢階級別・男女別の人口移動の状況

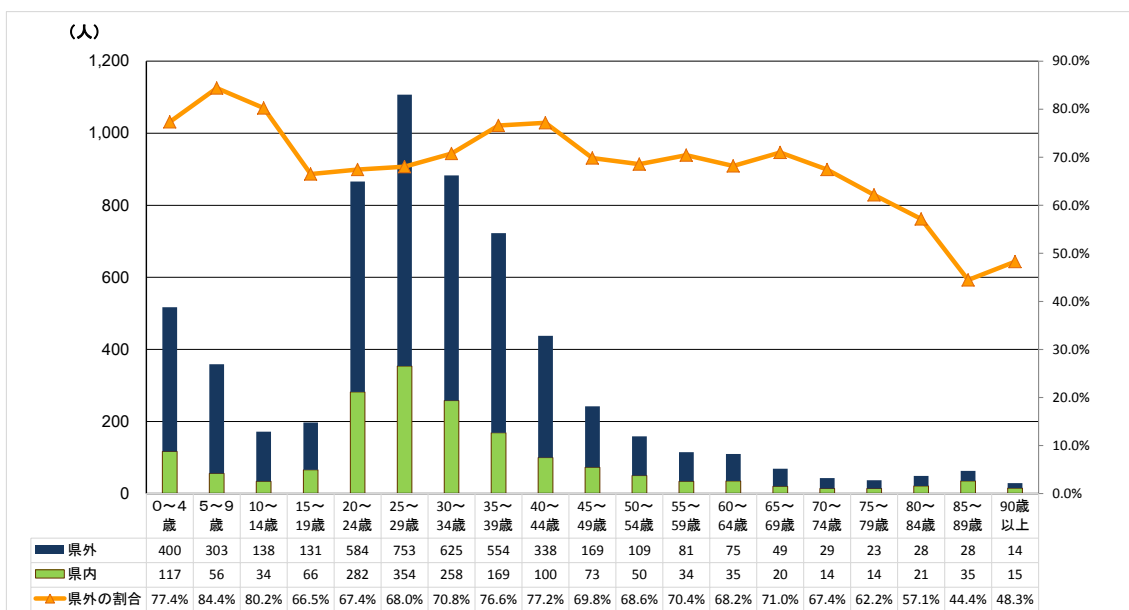
### ア 転入の状況

本市への転入は、男女とも 20 歳代、30 歳代が多くなっています。また、転入元は県外が多く、ほとんどの年齢階級で 70%を超えています。

#### (男性)



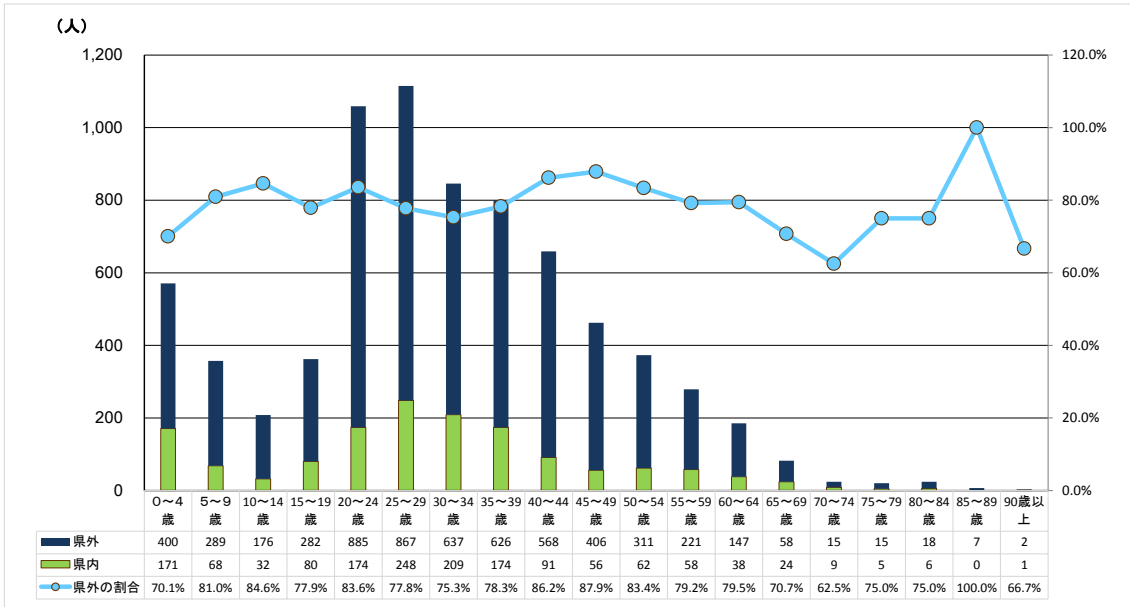
#### (女性)



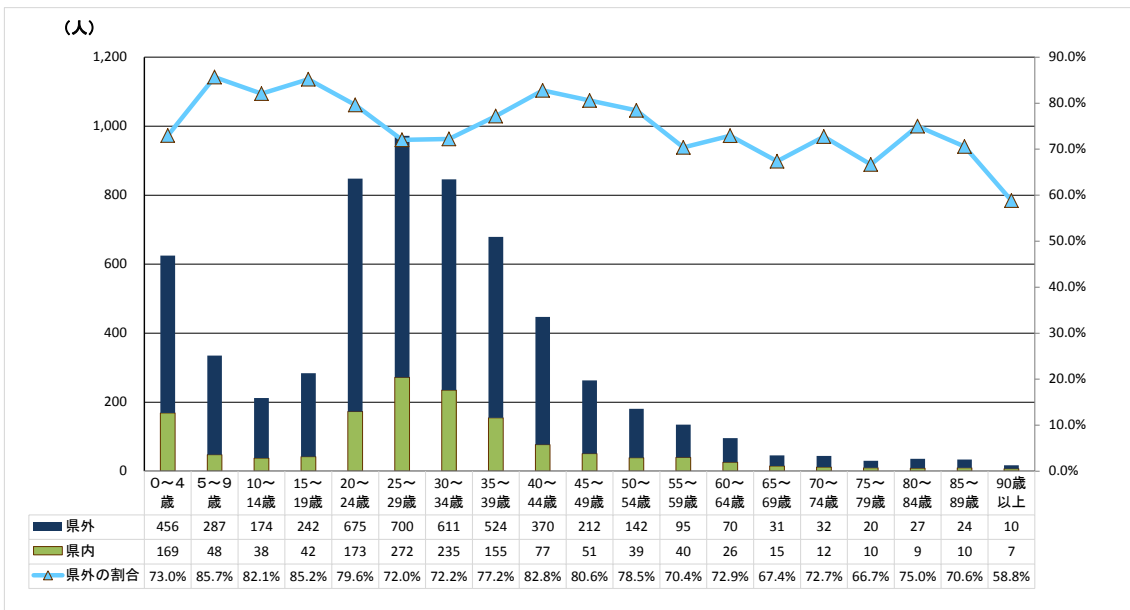
## イ 転出の状況

本市からの転出は、男女とも 20 歳代、30 歳代が多くなっています。  
また、転出先は県外が多く、ほとんどの年齢階級で 70%を超えています。

### (男性)



### (女性)

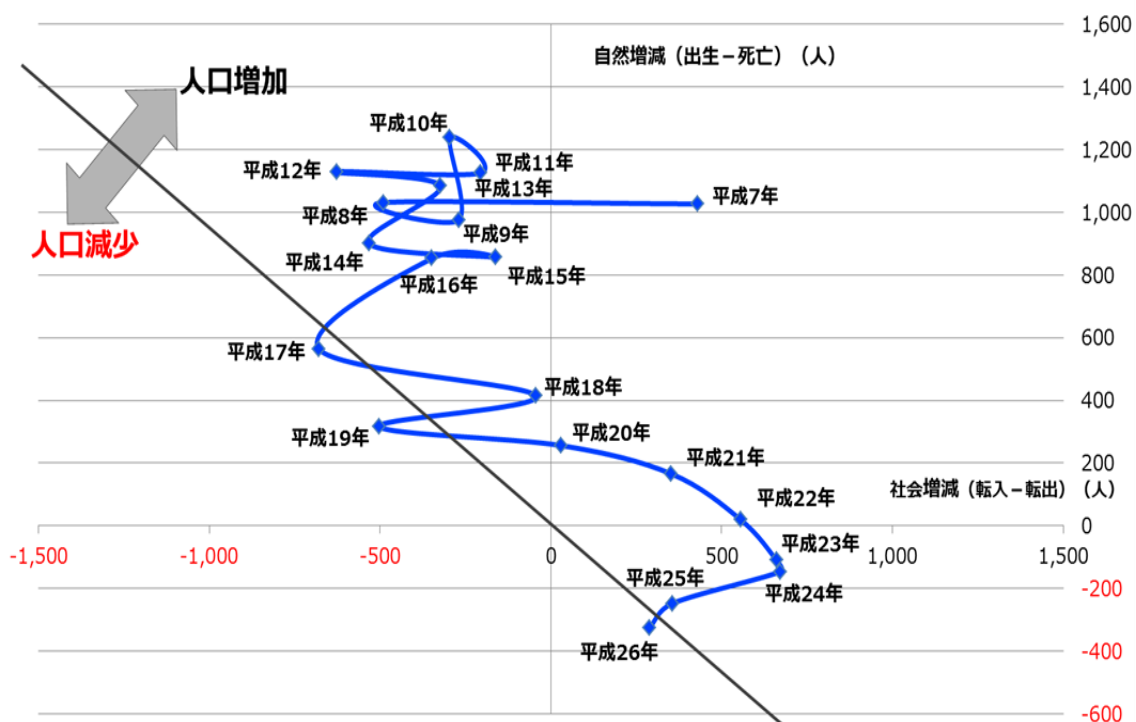


(8) 人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響

グラフの縦軸に自然増減、横軸に社会増減をとり、時系列で本市の総人口に与えてきた自然増減（出生数－死亡数）と社会増減（転入数－転出数）の影響を表しています。

自然増減を見ると、平成 22 年までは、差が減少していたものの、出生数が死亡数を上回っていました。平成 23 年以降は、死亡数が出生数を上回っています。

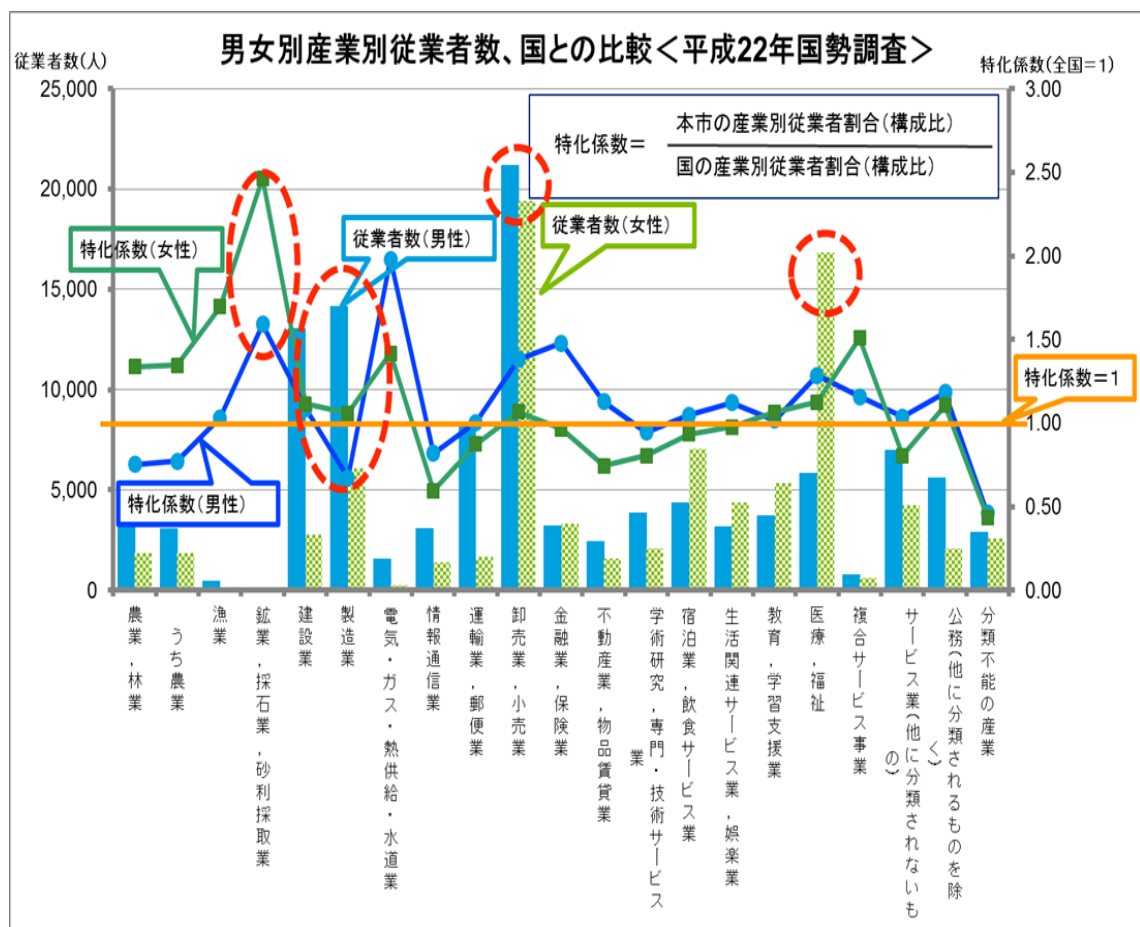
社会増減を見ると、平成 8 年から平成 19 年まで、転出者が転入者を上回る社会減となっていました。平成 20 年以降、転入が転出を上回る社会増となっています。



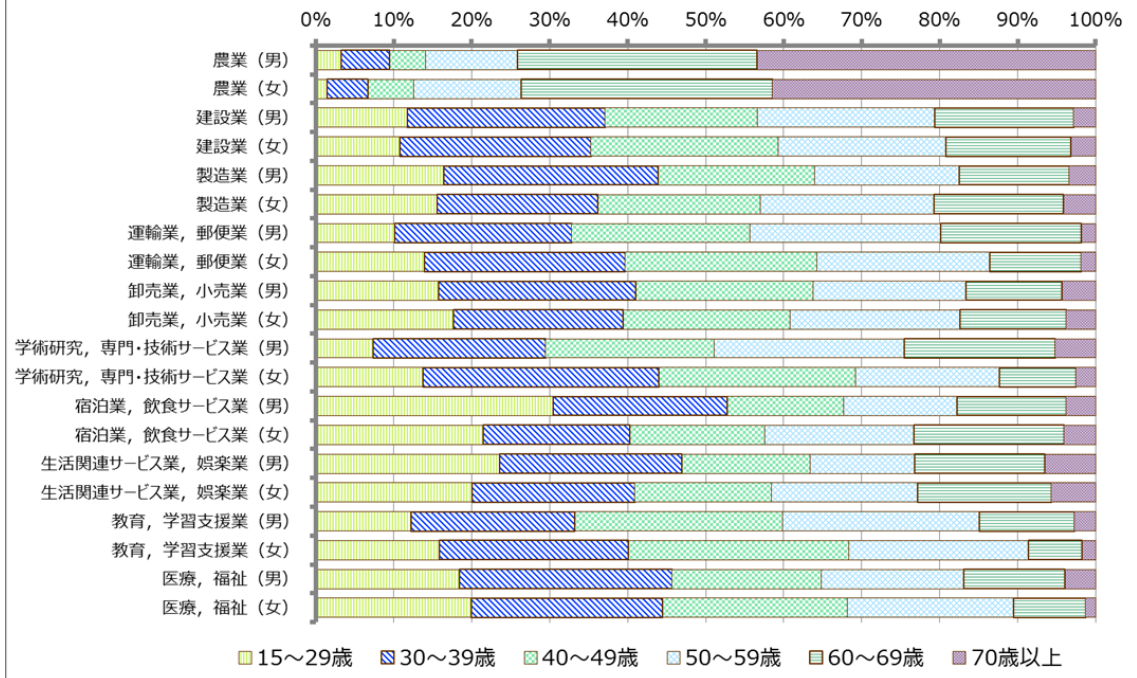
(9) 産業別就業者数

産業別の従事者数を見ると、男性は建設業、製造業、卸売業・小売業、女性は医療・福祉、卸売業・小売業への従事者が多くなっています。

また、男女共に、農業に従事している若年層の割合が低い一方で、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業は若年層の割合が高くなっています。



主な産業の男女別年齢別従業者割合 <平成22年国勢調査>

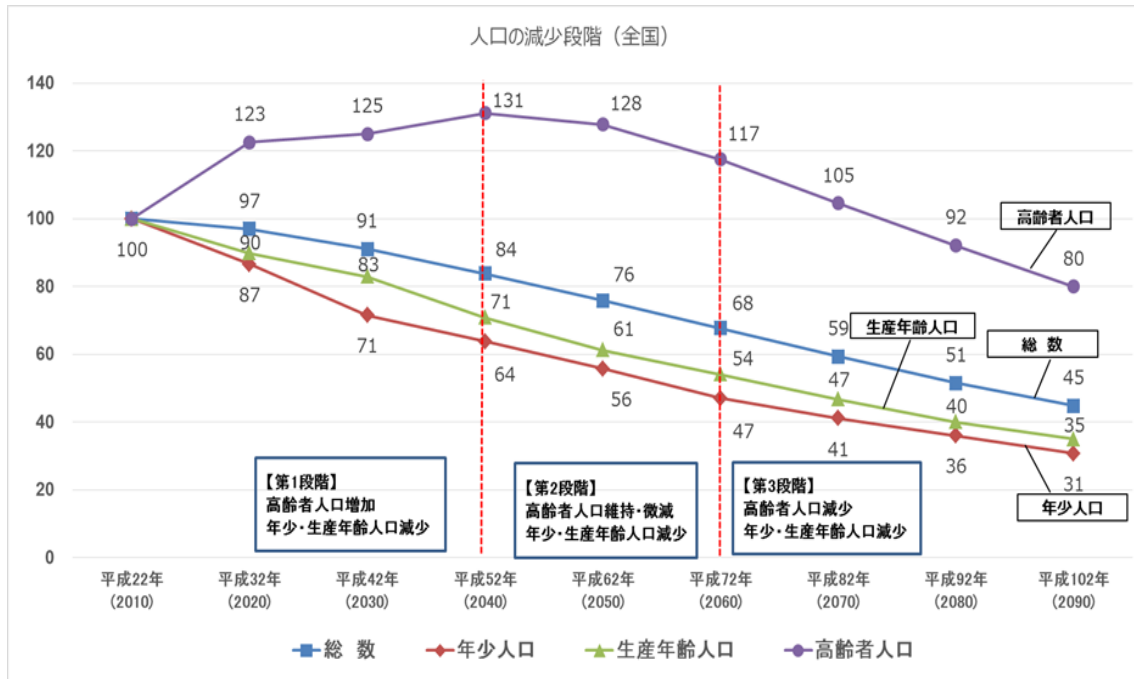




## 2 高松市の人口の将来推計と分析

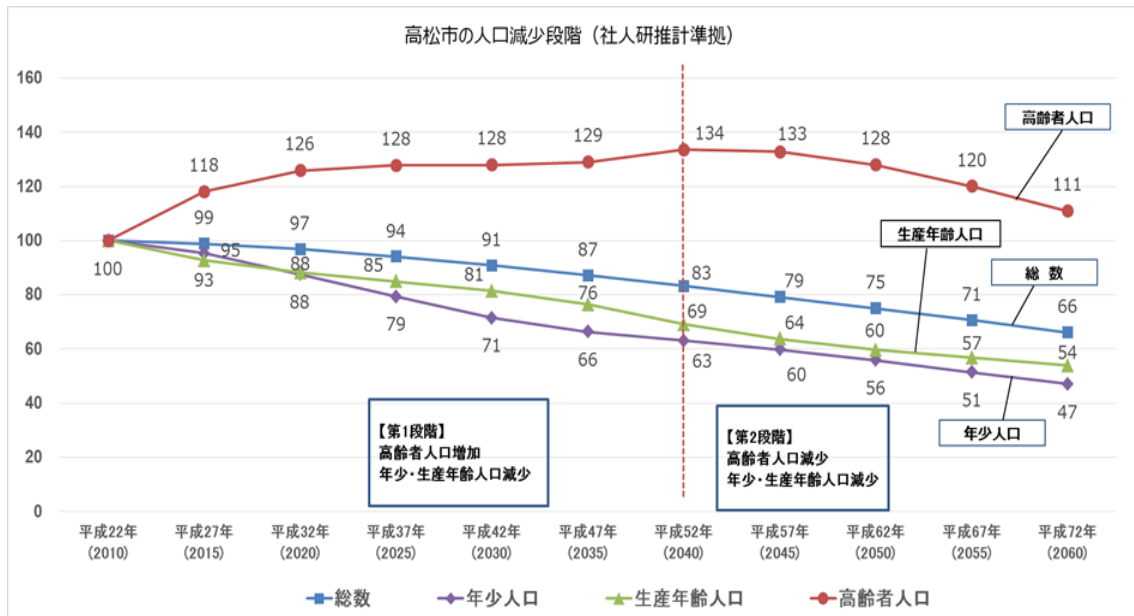
### (1) 人口減少段階

#### ① 全国の人口減少段階



全国	平成22年(2010)	平成52年(2040)		平成72年(2060)		平成102年(2090)	
	人口(千人)	人口(千人)	指数	人口(千人)	指数	人口(千人)	指数
総数	128,057	107,276	84	86,737	68	57,269	45
高齢者人口 (65歳以上)	29,484	38,678	131	34,642	117	23,568	80
生産年齢人口 (15~64歳)	81,735	57,866	71	44,183	54	28,540	35
年少人口 (0~14歳)	16,839	10,732	64	7,912	47	5,161	31

## ② 高松市の人口減少段階



	平成22年 (人)	平成52年 (人)	平成22年を100とした場合 の平成52年の指数	人口減少 段階
総人口	419,427	349,117	83	1
高齢者人口	97,148	129,817	134	
生産年齢人口	263,980	182,526	69	
年少人口	58,299	36,773	63	

## (2) 人口推計シミュレーション

将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度の分析のため、県推計に基づく4パターンの推計を実施しました。

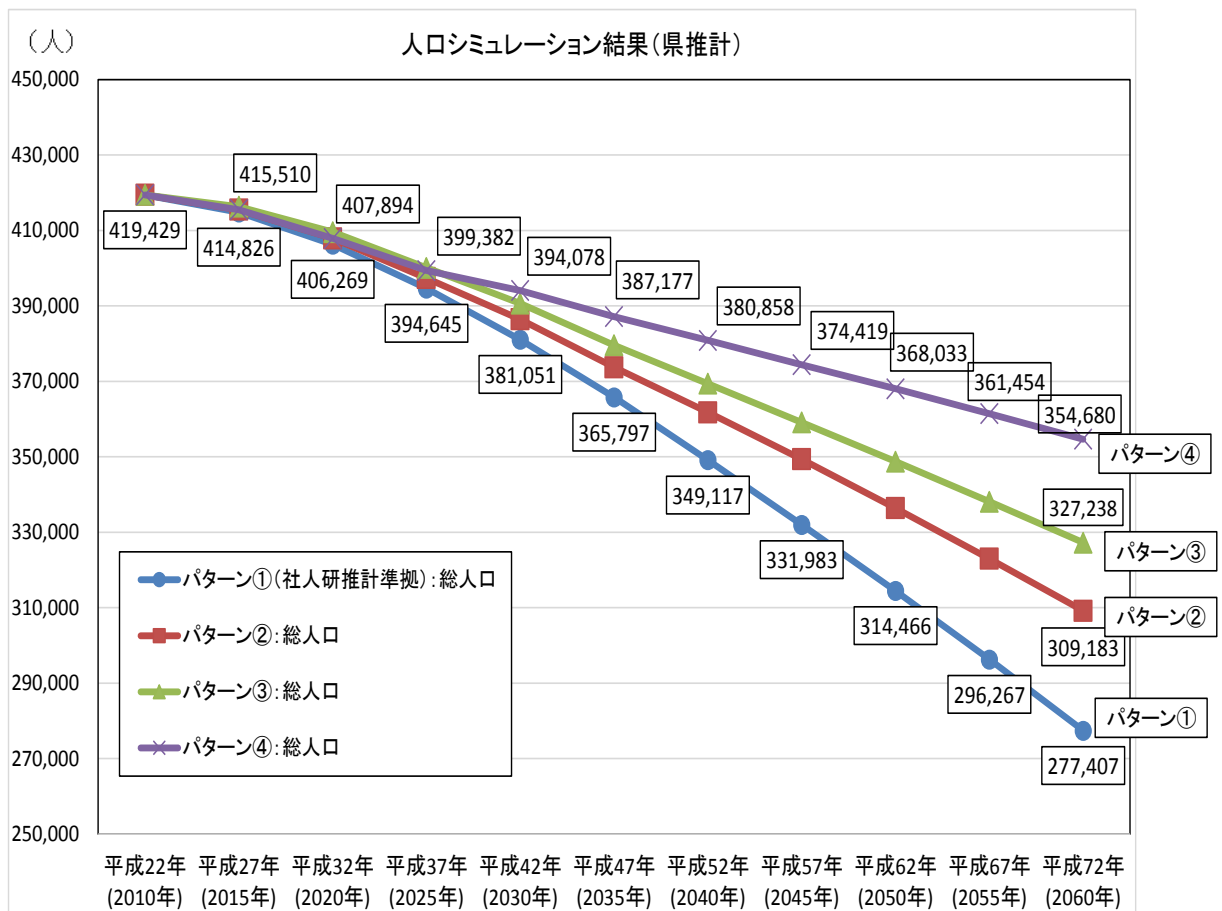
### 県推計に基づく推計

パターン①：合計特殊出生率及び純移動率が、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した推計

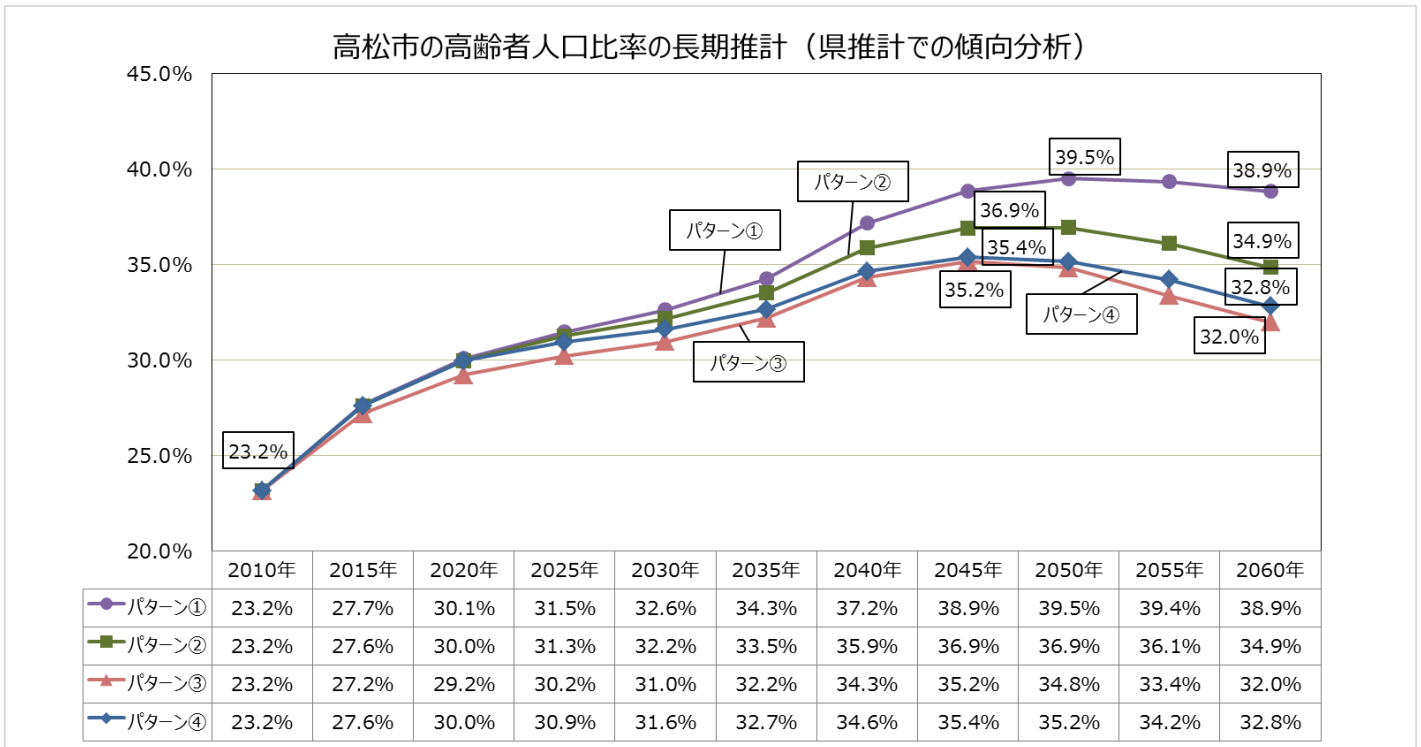
パターン②：合計特殊出生率（2030年1.8程度、2040年2.07程度）、純移動率が国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した推計

パターン③：合計特殊出生率はパターン②と同様に推移し、2015年～2020年から、社会増減が均衡して推移するとした推計

パターン④：合計特殊出生率はパターン②と同様に推移し、平成35（2023）年に社会増減が均衡し、以降、社会増（1,000人/年）の状況が続くとした推計



### (3) 高齢者人口比率の長期推計



### 3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析

#### (1) 財政状況への影響

人口減少、少子・高齢化の進展による人口構造の変化は、本市の財政状況に影響を及ぼすことが予想されます。

年齢区分別の人口推計から、生産年齢人口(15歳～64歳)だけでなく、次代の担い手となるべき年少人口(0歳～14歳)も減少することから、市税の納税者数は減少していくことが予想され、特に個人市民税が大きく影響を受けることとなり、市税収入が減少することが予想されます。

一方、高齢者人口(65歳以上)は増加することにより、医療及び介護の社会保障給付や高齢化に対応するための施策に要する経費も増大することが予想され、今後、この流れが加速していくこととなり、本市の財政状況に大きく影響すると予想されます。

#### (2) 公共施設への影響

本市では、多様な行政需要に対応するため、これまで小・中学校や福祉関係施設、庁舎など、多くの公共施設等を建設してきました。

これらの施設は、その多くが高度経済成長期からバブル期にかけて建設されたものであり、今後、老朽化の進展に伴い、建て替え等が一時期に集中することが予想され、その財政負担の軽減や年度ごとの平準化が課題となっています。

そのため、今後、人口減少、少子・高齢化の進展による人口構造の変化に伴う行政サービスの変容とあわせて、公共施設についても、保有総量や規模、配置の見直しのほか、既存施設の有効活用や新たなニーズへの対応など、その在り方についての検討が必要となっています。

## 4 高松市の人口の将来展望

### (1) 市民等の意識・希望

#### ① 市民等アンケート

##### ア 市民等アンケートの概要

人口減少の克服と地域活力の向上を目指し、本市の実情に応じた目標や施策の基本的方向を検討するため、平成 27 年 7 月に下記の対象者に対し、アンケートを実施しました。

調査区分		市民	転出者	大学生	高校生
対象数 (件)		1,500	500	—	—
回答数 (件)		457	117	332	869
回答率 (%)		30.5	23.4	—	—
主な調査項目	高松のまちについて	○	○	○	○
	高松での居住について	○			
	居住地の選択について	○	○	○	○
	就職・雇用について	○		○	○
	結婚・出産・子育てについて	○		○	○
	転出について		○		
	現在の居住地と高松市の比較について		○		
	高松市への U ターンについて		○		
	卒業後のことについて			○	○

イ. 市民等アンケート結果概要

<満足度・重要度 【市民】【転出者】【高校生】【大学生】>

満足度と重要度について、項目ごとに、該当するスコアの合計と回答数から求めた平均により比較

(参考) 項目ごとの満足度と重要度のスコア

満足度	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	わからない	無回答・無効回答
重要度	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない		無回答・無効回答
スコア	2	1	0	-1	-2	0	0

		満足度				重要度			
項目		市民	転出	高校生	大学生	市民	転出	高校生	大学生
1	自然環境	0.40	0.84	0.45	0.40	(0.16)	(0.09)	0.01	(0.10)
2	緑の環境	0.34	0.81	0.44	0.36	(0.21)	(0.07)	(0.06)	(0.16)
3	生活衛生環境	0.21	0.62	0.44	0.33	0.44	0.43	0.49	0.44
4	住宅事情	0.04	0.46	0.32	0.25	0.36	0.32	0.29	0.35
5	就業の場	(0.27)	(0.01)	0.07	(0.02)	0.14	0.18	0.21	0.14
6	余暇活動・レジャー	(0.54)	(0.09)	(0.18)	(0.42)	(0.31)	(0.16)	0.02	(0.05)
7	買物の利便性	0.22	0.46	0.27	0.03	0.52	0.45	0.50	0.48
8	まちのにぎわい	(0.36)	(0.08)	0.06	0.07	(0.43)	(0.27)	(0.16)	(0.28)
9	公共交通機関の利便性	(0.74)	(0.71)	(0.04)	(0.28)	0.31	0.32	0.46	0.36
10	道路の整備状況	0.07	0.50	0.18	0.13	0.22	0.15	0.25	0.19
11	建物や街並みの景観	(0.02)	0.36	0.23	0.14	(0.34)	(0.38)	(0.08)	(0.16)
12	子育て環境	(0.16)	0.18	0.14	0.05	0.35	0.40	0.41	0.19
13	教育水準	(0.05)	0.28	0.17	0.12	(0.10)	0.03	0.03	(0.12)
14	生涯学習の機会	(0.09)	(0.07)	0.15	0.11	(0.42)	(0.38)	(0.20)	(0.31)
15	芸術文化活動	0.02	0.10	0.24	0.25	(0.56)	(0.66)	(0.48)	(0.50)
16	スポーツ活動	(0.10)	0.03	0.17	0.09	(0.44)	(0.62)	(0.23)	(0.21)
17	医療・保健	(0.03)	0.23	0.27	0.31	0.58	0.57	0.51	0.43
18	福祉	(0.19)	0.03	0.18	0.15	0.28	0.09	0.24	0.20
19	交通安全対策	(0.61)	(0.51)	(0.18)	(0.39)	0.24	0.03	0.35	0.27
20	災害への備え	(0.32)	(0.19)	(0.04)	(0.10)	0.51	0.31	0.52	0.40
21	公共サービス	(0.22)	0.03	0.12	0.06	0.17	0.20	0.26	0.23
22	近所づきあい	(0.07)	0.13	0.25	(0.10)	(0.11)	(0.14)	0.07	(0.10)
23	地域の人々の交流	(0.11)	0.05	0.21	0.04	(0.45)	(0.38)	(0.13)	(0.08)

<出産しやすい環境に必要なと思うもの(複数選択)【市民】>

選択肢	回答数	割合
妊娠・出産時の経済的負担の軽減	232	50.8%
産休・育休制度の充実	226	49.5%
妊娠・出産に関する相談・地域のサポート体制の充実	86	18.8%
支援は必要ない	6	1.3%
その他	16	3.5%

<現在の子ども数【市民】>

選択肢	回答数	割合
0人	187	40.9%
1人	83	18.2%
2人	121	26.5%
3人	45	9.8%
4人以上	7	1.5%
無回答・無効回答	14	3.1%
合計	457	100.0%

<理想的な子ども数【市民】>

選択肢	回答数	割合
0人	15	3.3%
1人	36	7.9%
2人	238	52.0%
3人	143	31.3%
4人以上	16	3.5%
無回答・無効回答	9	2.0%
合計	457	100.0%

<「現在の子ども数」が「理想的な子ども数」より少ない理由（複数選択）【市民】>

選択肢	回答数	割合
子育てにはお金がかかる	77	23.5%
仕事と子育ての両立が難しい	43	13.1%
高齢出産になる	34	10.4%
ほしいけれどもできない	32	9.8%
高等学校や大学教育にお金がかかる	31	9.5%
子育てを手助けする人がいない	22	6.7%
育児の心理的・肉体的負担が大きい	19	5.8%
保育園や幼稚園にお金がかかる	19	5.8%
仕事や趣味を優先したい	15	4.6%
健康上の理由	15	4.6%
自分や夫婦の生活を大切にしたい	9	2.8%
住居が狭い	8	2.4%
子どもの医療費の経済的負担が大きい	6	1.8%
いじめなど子どもの成長に不安がある	6	1.8%
配偶者の協力が得られない	4	1.2%
職場の理解がない	2	0.6%
その他	39	11.9%



<子育てしやすい環境に必要なと思うもの（複数選択）【市民】>

選択肢	回答数	割合
子どもの人数に応じた経済的な支援	195	42.7%
保育所などの預け先の施設の充実	192	42.0%
子育てがしやすい税制や社会保障の実施	170	37.2%
育児休暇制度の充実（期間の延長など）	138	30.2%
長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、育児時間の確保	121	26.5%
地域ぐるみで子育てができる環境づくり	93	20.4%
子育てに関する相談、サポート体制の充実	85	18.6%
男性の育児休暇取得の推奨	76	16.6%
育児や住宅に対する資金貸与や補助支援	67	14.7%
企業による育休明けの働き方に関する支援	56	12.3%
育児に関するセミナーなどの開催	12	2.6%
支援は必要ない	4	0.9%
その他	22	4.8%

<卒業後の居住予定地【高校生】【大学生】>

選択肢	高校生		大学生	
	回答数	割合	回答数	割合
高松市内	226	26.0%	75	22.6%
高松市以外の県内	38	4.4%	21	6.3%
県外	298	34.3%	101	30.4%
わからない	257	29.6%	133	40.1%
無回答・無効回答	50	5.7%	2	0.6%
合計	869	100.0%	332	100.0%

<卒業後の居住予定地の選択理由（複数選択）【高校生】【大学生】>

選択肢	高校生		大学生	
	回答数	割合	回答数	割合
進学希望の学校があるから	314	36.1%	30	9.0%
希望する就職先の企業があるから	124	14.3%	61	18.4%
魅力のある都市があるから	108	12.4%	34	10.2%
自分の出身地であるから	122	14.0%	108	32.5%
両親（親戚）が住んでいるから	127	14.6%	65	19.6%
生活費が安いから	35	4.0%	3	0.9%
生活するうえで利便性が高いから	114	13.1%	61	18.4%
その他	52	6.0%	40	12.0%

(2) 目指すべき将来の方向

① 現状と課題の整理

ア.人口分析・推計からの考察

	総人口	少子・高齢化
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然減の拡大(自然増減)</li> <li>・継続した転入超過(社会増減)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率の回復(自然増減)</li> <li>・生産年齢人口の減少(社会増減)</li> <li>・15～19歳の転出超過(社会増減)</li> </ul>
推計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会増減の影響が大きい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率の向上が高齢化を抑制する</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入抑制が起こった場合の人口減少リスク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合計特殊出生率の向上</li> <li>・生産年齢人口の確保</li> <li>・若年層の転出抑制</li> </ul>

イ.市民アンケート結果からの考察

調査項目	現状	課題
高松のまちについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境、生活環境への満足度が高い。</li> <li>・買い物の利便性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関に関する満足度が低い。</li> <li>・交通安全に対する満足度が低い。</li> </ul>
出産・子育てについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て環境、教育環境に対する満足度は、中程度である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所整備、経済的支援を求める回答が多い。</li> </ul>
高校生・大学生の卒業後の居住予定地について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業後の居住予定地として、高松市との回答は25%程度に留まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある進学先や就職先が居住の意思決定上、優先される。</li> </ul>

## ② 本市の人口減少対策

「人口減少社会」という重要課題に対応するためには、ひとを呼び込み、地域経済を活性化し、更なる雇用を創出することで、若者から選ばれるとともに、子どもを生み育てやすい、創造性豊かなまちを創ることが必要です。

さらに、高齢者が健やかに暮らし続けられる、地域コミュニティを軸とした持続可能なまちを創ることが必要となります。

これらの実現を目指し、本市では、大きく2つの戦略を設定し、人口減少対策に取り組みます。

また、総合戦略の策定に当たっては、地域経済の活性化にも重点を置き、瀬戸内海とウォーターフロントの魅力を効果的に発信します。

特に、観光とMICEの振興による交流人口の拡大と、定住の促進を図りながら、海や山の身近で豊かな自然と、まちにおけるさまざまな都市機能がコンパクトにまとまった、本市の特性を生かした「高松ならではの」総合戦略を実行し、本市人口の将来展望に掲げる目標の達成に取り組みます。

### 『本市の人口減少対策』

#### 人口減少を抑制する戦略

ひとを呼び込み、地域経済を活性化し、更なる雇用を創出することで、若者から選ばれるとともに、子どもを生み育てやすい、創造性豊かなまちを創る

#### 人口減少社会に対応する戦略

高齢者が健やかに暮らし続けられる、地域コミュニティを軸とした持続可能なまちを創る

### (3) 本市人口の将来展望

国及び県の長期ビジョン及び人口ビジョンの策定に当たり、実施した分析や市民等へのアンケート調査等を考慮し、今後、本市が目指すべき将来の人口推移と長期的な見通しを設定します。

#### 『目指すべき将来の人口』

目標人口：2060年に約36万人を目指します。

##### ① 合計特殊出生率

合計特殊出生率は、次の仮定を置いて推計しています。

- ・平成42（2030）年に 1.86
- ・平成52（2040）年に人口置換水準 2.07

##### 【参考】

国・県の長期ビジョン等における合計特殊出生率

- ・平成42（2030）年に 1.80
- ・平成52（2040）年に人口置換水準 2.07

##### ② 純移動率

純移動率は、男女別・5歳別の直近値（平成17年と平成22年の国勢調査人口ベース）が今後も続くと仮定し、その中で、男性は10歳代後半から20歳代前半の純移動率が均衡し、女性は10歳代後半から20歳代前半、10歳代前半から10歳代後半の純移動率が均衡するとして推計しています。

